

「課題研究プログラム」 Q and A

1. 課題研究プログラムのねらいは何ですか？

高度化する経済学・経営学を専門的な水準で学び直したいと考える人たちや、経済社会の発展にともない学部レベルの経済学・経営学だけでは企業や官公庁で活躍するのに十分でないと感じる社会人が増えつつあります。そうした人たちに大学院の講義を体系的に履修してもらうことで、経済学・経営学の専門的知識を修得してもらうのが本プログラムの目的です。

入試では研究能力と研究テーマの明確性の2つの観点から可否を判定しますが、研究能力が合格レベルに達した方は課題研究プログラムに参加できます。研究能力に加えて研究テーマの明確性も合格レベルに達した方は課題研究プログラムと修士論文を作成する通常のプログラムから参加するプログラムを選択できます。

2. 課題レポートとは何ですか？

課題レポートが課されるのは専任教員の講義（基礎科目および研究指導を除く）です。各学期の終わりに本プログラム履修者用のレポート課題が提示されます。講義で得た知識の単なる暗記で終わらせるのではなく、レポートの作成を通じて、調査・研究・復習をしながら学んだ知識を整理・定着させることが課題レポートの目的です。十分に時間をかけてレポートを作成できるように、各期に提出できるレポートを2本までとし、学期後の長期休業期間に作成することを想定しています。レポート執筆に十分な時間が確保できない最終学期の講義から課題レポートを選択することはできないので、注意して下さい。

講義の単位認定とは別に、課題レポートの可否は判定されます。講義によってはレポートの再提出を認める場合があります。

3. 課題レポートは自由に選択できますか？

課題レポート3本の合格が修了の要件となりますが、そのうち少なくとも2本は希望する学位（経済学・経営学）に応じた講義群の課題レポートを含んでいる必要があります。

4. 履修モデルはありますか？

必修科目（研究指導2単位）に加えて、体系的に学んでもらうために、希望する学位（経済学・経営学）に応じた講義群から18単位以上を含め、総単位数30単位以上の履修が修了要件となっています。履修計画等については指導教員にご相談下さい。

5. 研究指導の内容はどのようなものですか？

大学院での学び方、レポート執筆の方法や注意点など修学に関する一般的な指導を行います。本プログラムでは複数の研究指導を履修できませんが、履修後も指導教員から修学のアドバイスを受けることができます。

6. 最終試験を受ける必要はありますか？

最終試験（面接）を受ける必要があります。合格した課題レポート3本の内容について審査を行います。

7. 学位（経済学・経営学）の選択はいつになりますか？

最終試験の対象となる3本のレポートを選んだ段階で決定となりますが、学位に応じた計画的な履修を早くから心がけて下さい。

8. 課題研究プログラムへの参加手続きは？

入学手続き時に送付される書面で参加を申請します。

9. 課題研究プログラムから修士論文を作成する通常のプログラムに移行することはできますか？

研究計画書にもとづく面接により、研究テーマが明確であり、修士論文の作成が可能であると判断された場合は、2年進級時に通常のプログラムに移行することができます。

10. 課題研究プログラム参加者の早期修了は可能ですか？

課題研究プログラムは、標準履修年限（2年間）での体系的な学修を基に設計されたプログラムですので、早期修了（修業年限の短縮）はできません。

11. 入学後に修士論文を作成する通常のプログラムから課題研究プログラムに変更することはできますか？

指導教員の許可があれば、2年進級時から本プログラムへの変更が可能です。ただし、2年次からの参加者は、課題レポートの提出条件から最低でも修了時期が半期遅れることに

なるので、入学手続きおよび変更手続きの際には十分ご注意ください。

12. 課題研究プログラム修了後に後期課程への進学は可能ですか？

本研究科も含めて、後期課程入試では研究業績の提出を求められるケースが多いです。前期課程を修了（見込みを含む）すれば後期課程の出願資格がありますが、与えられた課題で執筆する課題レポートはオリジナリティーの点で修士論文よりも研究業績としての評価が低くなる可能性もあります。